

殺菌剤

トリフミン® 水和剤

登録番号 第16300号
性 状 類白色水和性粉末 45μm以下
有効期限 5年
毒 性 普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
包 装 (100g×25袋)×4箱、500g×20袋

日曹の農薬

有効成分 トリフルミゾール 30.0%
種 類 名 トリフルミゾール水和剤 殺菌剤分類 3

- 特 長
- 1. 予防効果と治療効果に優れ、病斑の拡大や孢子形成を阻止します。
 - 2. 浸達性に優れるので、散布後に降雨があっても効果にほとんど影響はありません。
 - 3. 作物に対して汚れが少ない薬剤です。
 - 4. 作物に対する安全性が高い薬剤です。
 - 5. 有用昆虫に対する安全性が高い薬剤です。



製品ページはこちら

■適用病害名及び使用方法 (2025年11月21日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	トリフルミゾール を含む農薬の 総使用回数	使用方法
かりん	赤星病	2,000	200～700 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	3回以内	散布
なし	黒星病	2,000～ 3,000					
	赤星病						
	うどんこ病	2,000					
マルメロ	赤星病						
りんご	斑点落葉病	2,000～ 3,000		収穫前日 まで			
	黒星病						
	うどんこ病						
	赤星病						
もも	灰星病	1,000～ 1,500		収穫前日 まで			
	黒星病	1,500～ 2,000					
	うどんこ病						
うめ	黒星病	2,000		収穫14日 前まで			
すもも	灰星病	1,000		収穫前日 まで			
おうとう		1,000～ 1,500	収穫14日 前まで	2回以内	2回以内		
ぶどう	うどんこ病	2,000～ 3,000	収穫7日 前まで	3回以内	3回以内		
	黒とう病	2,000					
	褐斑病						
あけび(果実)	うどんこ病		収穫3日 前まで				
いちじく	株枯病	500	1～10L/株	収穫前日 まで	4回以内	7回以内 (散布は3回以内、 灌注は4回以内)	灌注
	さび病	2,000	3回以内		3回以内		散布
	そうか病						
かき	うどんこ病	2,000～ 3,000		200～700 L/10a		収穫7日 前まで	
	黒点病	2,000					
マンゴー	うどんこ病						

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	トリフルミゾール を含む農薬の 総使用回数	使用方法
かんしょ	基腐病	16	0.8～1.6 L/10a	収穫前日 まで	2回以内	3回以内 (植付前の処理 は1回以内、 植付後は 2回以内)	無人航空機 による散布
		2,000～ 3,000	100～300 L/10a				散布
	つる割病	500	－	植付前	1回		17時間 苗基部浸漬
こんにゃく	乾腐病					50	種いも1m ² 当り150mL
ごぼう	うどんこ病	1,000	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	3回以内	散布
しょうが	褐色しみ病			5回以内	5回以内		
葉しょうが	白星病			収穫7日 前まで	3回以内	3回以内	
		にんじん					
たまねぎ	乾腐病	50	－	定植直前	1回	1回	5分間 苗根部浸漬
		50～100	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット 1冊(30×60cm、 使用土壌約5L) 当り0.5L	定植前			苗床灌注
		100	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット 1冊(30×60cm、 使用土壌約5L) 当り0.5～1L				
食用ゆり	鱗茎さび症	50	－	植付前			種球 瞬間浸漬
にんにく	葉枯病	2,000	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3回以内	3回以内	散布
らっきょう	乾腐病	50	－	植付前	1回	1回	5～30分間 種球浸漬
	黒球病						5分間 種球浸漬
ねぎ	萎凋病			定植直前			1回
		100	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット 1冊(30×60cm、 使用土壌約5L) 当り0.5L	定植前	苗床灌注		
		200	セル成型育苗 トレイ1箱または ペーパーポット 1冊(30×60cm、 使用土壌約5L) 当り1L				

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	トリフルミゾール を含む農薬の 総使用回数	使用方法				
にら	さび病	2,000	100～300 L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	3回以内	散布				
さやえんどう	うどんこ病	3,000～ 5,000	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	5回以内					
実えんどう											
きゅうり								黒星病			
	つる枯病	3,000			3回以内	3回以内					
にがうり	うどんこ病	3,000～ 5,000			5回以内	5回以内 (種子粉衣は 1回以内)					
かぼちゃ	フザリウム立枯病	種子重量 の0.3%			－			は種前	1回	種子粉衣 (湿粉衣)	
すいか	つる枯病	3,000	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	5回以内	散布				
	うり類(漬物用)	うどんこ病						3,000～ 5,000			
つる枯病											
炭疽病											
うどんこ病											
メロン	陥没病	3,000									
	つる枯病										
	葉かび病							3,000～ 5,000			
トマト	すすかび病	3,000									
	うどんこ病										
	ミニトマト							葉かび病	3,000～ 5,000		
なす	すすかび病	3,000									
	うどんこ病	3,000～ 5,000									
		すすかび病						3,000			
とうがらし類	うどんこ病	4,000～ 5,000									
ピーマン		3,000～ 5,000									
セルリー	斑点病	2,000								2回以内	2回以内
パセリ	うどんこ病	8,000							収穫30日 前まで	1回	1回
しそ	さび病	5,000							※収穫開始 10日前まで	3回以内	3回以内
ふき	うどんこ病	3,000							収穫14日 前まで		
ふき(ふきのとう)	うどんこ病	3,000							収穫45日 前まで		
	さび病										
アスパラガス	立枯病	1,000						3L/m ²	収穫7日 前まで	1回	1回

※しその使用時期は収穫開始 10 日前まで（収穫開始後は使用しない）。

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	トリフルミゾール を含む農薬の 総使用回数	使用方法	
いちご	じゃのめ病	3,000	100～300 L/10a	収穫前日 まで	5回以内	5回以内	散布	
	輪斑病							
	うどんこ病	3,000～ 5,000						
オクラ	黒斑病	5,000			3回以内	3回以内		
	うどんこ病							
	葉すす病							
稲	ごま葉枯病	30	－	浸種前	1回	1回	10分間 種子浸漬	
	いもち病							
	ばか苗病							
	ごま葉枯病	300					乾燥種籾 1kg当り 30mL	24～48 時間 種子浸漬
	いもち病							
	ばか苗病							
	ごま葉枯病	乾燥籾重量 の0.5%						種子粉衣 (湿粉衣)
	いもち病							
	ばか苗病							
	ごま葉枯病	7.5～15	乾燥種籾 1kg当り 30mL				種子吹き 付け処理 (種子消毒機 使用)	
	いもち病							
	ばか苗病							
麦類	斑葉病	種子重量 の0.5%	－	は種前	3回以内 (種子粉衣は 1回以内)	種子粉衣		
	裸黒穂病							
	なまぐさ黒穂病							
	網斑病							
	うどんこ病	1,000～ 2,000	60～150 L/10a	収穫14日 前まで				
	赤かび病							
とうもろこし(子実)	すす紋病	2,000～ 4,000	100～300 L/10a	収穫30日 前まで	3回以内	3回以内	散布	
未成熟とうもろこし				収穫7日 前まで				
茶	炭疽病	1,500～ 2,000	200～400 L/10a	摘採14日 前まで				
	もち病	1,000～ 1,500						
花き類・観葉植物 (ばら、きくを除く)	うどんこ病	3,000	100～300 L/10a	発病初期	5回以内	5回以内		
きく	白さび病	1,000						
	うどんこ病	3,000						
チューリップ	球根腐敗病	球根重量 の0.2%	－	植付前	1回	1回	球根粉衣	
ばら	うどんこ病	3,000～ 5,000	100～300 L/10a	発病初期	5回以内	5回以内	散布	
樹木類 (しきみを除く)		3,000	200～700 L/10a					
しきみ		60	10～30 L/10a				無人航空機 による散布	
		5,000	25～180 L/10a	収穫10日 前まで	2回以内	2回以内	散布	
たばこ								

効果・薬害などの注意

1. 使用量に合わせ薬液を調製し、速やかに使いきってください。
2. なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度の黄斑を生じる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
3. なしに使用する場合は、MEP 剤との混用により薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
4. いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は次のことに注意してください。
 - (1) 1 ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
 - (2) 根域に対する処理量が著しく多いと、生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、根域に合わせて処理量や回数を調整してください。
5. 本剤をりんごに使用する場合、黒星病、赤星病及びうどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病に対しては落花後 20 日頃までの初期防除剤として使用してください。
6. かきの黒点病に対しては、多発時には効果が劣る場合があるので、注意してください。
7. ウリ科作物の幼苗期には、濃緑化症状及び生育抑制が生じることがあるので、使用しないでください。
8. チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に本剤を均一に粉衣してから植付けてください。
9. スイトピーに使用する場合、薬害が生じるおそれがあるので、開花期以降は使用をさけてください。
10. カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用后 14 日間は入水しないでください。
11. 本剤を水稻の種子消毒に使用する場合には、次の注意事項を守ってください。
 - (1) 種子消毒は浸種前に行ってください。
 - (2) 浸漬処理の場合、粉と処理薬液の容量比は1：1以上とし、種粉はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
 - (3) 粉衣処理の場合は、付着をよくするため、湿粉衣としてください。
 - (4) 吹き付け処理の場合は、種子消毒機を使用し、種粉に均一に付着させて乾燥してください。
 - (5) 処理した種粉は、風乾後、水洗せずに浸種してください。
 - (6) 消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として始めの2日間を行わないでください。その後換水する場合は静かに行ってください。
 - (7) 粉衣処理、高濃度浸漬(30 倍)及び吹き付け処理をした種子を播種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてください。
 - (8) 軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
12. 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
13. 本剤を無人航空機による散布で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
 - (1) 散布は散布機種種の散布基準に従って実施してください。
 - (2) 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - (3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - (4) 散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
 - (5) 散布終了後は機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また、使用後の空の袋は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
14. 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
15. 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。



安全使用上の注意



16. 通常の使用方法では危険性は低いですが、誤飲、誤食などのないように注意してください。万一誤って飲み込んだ場合には、吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けてください。
17. 眼に対して刺激性があるので眼に入らないように注意してください。万一眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
18. 皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。万一付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としとしてください。
19. 使用の際は、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用してください。また、薬剤を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
20. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
21. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
22. 街路、公園などで使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜などに被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

● 水産動植物への影響

水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

● 保管上の注意

密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない、冷涼・乾燥した所に保管してください。

● トリフミン水和剤の上手な使い方

- ①ボルドー液との混用はさけてください。
- ②ハウスなどの施設栽培メロンに使用する場合は、特にネット系メロンでは、交配2～3日前から交配 20 日後までの幼果の時期には、薬害を生じるおそれがあるので、この時期の使用はさけてください。
また、散布後高温が予想される場合は、使用しないでください。
- ③はだかむぎの種子粉衣に使用する場合は、軽度な初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復しますので、通常の管理を維持してください。
- ④稲、麦類の薬剤処理した種子は、食糧・飼料に用いないよう注意してください。

水稻の種子消毒に使用する場合について

- ⑤薬液の温度はなるべく 10℃以下をさけてください。
- ⑥低濃度(300 倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌してください。
- ⑦箱育苗の場合、は種前に床土に十分灌水し、覆土後の灌水は原則として行わないでください。灌水量が少ないと一般に根上がり
の原因となるので、灌水量は少なくとも箱当たり1ℓ以上として下さい。
- ⑧丸型樹脂ポット・型枠育苗方式で育苗される場合には、機械メーカーなどの関係機関の指導を受けるようにしてください。
- ⑨過度な高温での出芽は行わないでください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には、使用しないでください。

●小児の手の届く所には、置かないでください。●空容器・空袋はほ場などに放置せず、適切に処理してください。